

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Plus+days鳳校				公表日	2025年7月5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	子どもの人数が多い時には部屋の仕切りを外して広い空間にして過ごせるようにしている。部屋を分けて、分散して遊んだり落ち着いて過ごせるようにしたりしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	平日は子ども1人に対して職員が1名つく体制をとっている。一人ひとりに目が行き届いている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	各部屋に動物の名前を付けてわかりやすくしている。絵カード等で視覚的にわかりやすくなっている。活動内容によって部屋を分けて使用し、子どもにも周知ができています。校内の掲示物を最小化し、刺激が少ないようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日の掃除や消毒、点検により清潔で安全な環境づくりが保てている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	パーティションや扉で仕切られていて、必要に応じて個別で使用することができています。子どもの要望に応じて職員が判断し使用できる状況となっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	日々の会議でできている。	全員ができていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	職員に共有されている。ホームページにも公開されているため、個々でも確認できる。	行っているが、実施状況について理解できていない職員もいるため、新規入職者等に対しても一層の周知に努めたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	朝礼、昼礼、終礼での共有、共有ノートを通して職員の意見を把握できている。	共有ノートについて、見るだけに留まっている職員もあるため、一人一人がより能動的に活用する意識を持てるように努めたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		外部評価の実情について職員に周知を行う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	社内、社外の研修に参加する機会が多く設定されている。虐待防止研修や外部の研修を通して向上を図ることができている。パートタイマー職員には研修動画の共有等を行っている。	研修を受ける機会の少ないパートタイマー職員へも情報の周知を行う。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	子ども相談室を通して子どもの意見を、送迎等の機会を通して保護者の意見を聞いている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	ケア会議を実施し子どもの現状やニーズを吟味し検討することができている。専用の用紙に記入し記録をとっている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	各自が計画に沿うように工夫をすることができている。ファイリングされていて、職員はいつでも確認できる。		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	気になることは、職員間で口頭だけでなくメモなども使って共有している。 守札や共有ノート、連絡帳の職員共有欄等で子どもの状況を共有し確認することができている。 発達検査の結果等も参考にしながら言葉の発声、発音練習や運動機能の向上のための活動を取り入れるようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	具体的に設定できている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	土曜日のイベント活動は複数の職員で考えている。	その日の担当職員が各自で決めている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	職員を固定せずに複数の職員でプログラムを回すようにしている。	子どもが楽しいと感じる活動プログラムについて、まだ工夫できる余地があると感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	集団活動の際でも、個々の状況に合わせて個別でついて支援にあたるなどしている。	平日の利用児童が減り、集団活動の実施が難しいことがある。その際には職員が複数子どもの役を行い対応している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	朝礼で支援内容の共有と職員の配置を確認できている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	終礼ノートに記入し振り返りができるようにしている。	個々での対話に終わり、全体での打ち合わせができていない。早く上がる職員がいてできていない。集まれる仕組みを考えていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	共有ノートやシステムの職員共有欄に共有事項を記載し記録を取っている。	記録を取らずに口答のみになってしまい、必要な支援が抜けてしまうことがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	支援会議や子ども相談室を設けている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	会議に参加する前に他の職員の様子を聞き、現状や支援の方法などをまとめてから児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	持病のある子どもが症状が出た時の対処法や医療機関の連絡先等が共有されていて、支援体制が整っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	送迎時に園での過ごし方等を聞いたり、プラスデイズのようすを伝えたりして情報共有を行うようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	送迎についての事柄も含めて、該当の学校へ入電やあいさつに行き、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	研修に参加させていただいた。	研修報告について、パートタイマーの職員等に浸透しきれていないため、全体へ周知するよう努める。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	他事業所との交流や地域のイベントに参加し交流の機会を設けた。	園との交流は図れていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	連絡帳に記入したり、送迎時に話をしたりして常に共通理解を持っている。	必要な時に留まっていることがある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3	保護者会や見学の際に機会を設けている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	見学や契約時に伝えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	子ども、保護者それぞれの思いを確認する機会を作り努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	電話、または直接保護者へ説明を行わないようについて理解してもらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	送迎時に相談いただいた際には適切に応じ、職員間でも共有できている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	0	保護者会を定期的に開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	体制の整備については契約書にも記載し周知を行っている。迅速な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	月に1度発行のプラスデイズ通信(会報)や日々のSNSを通じてわかりやすく発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	通信やSNSで発信する時には、個人が特定されないように顔や名前等を隠すようにしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	1日の流れなど個々のあったツールを作成するようにしている。イラストや写真を使うなど工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	地域の行事に参加している。	事業所へ招待をしたことはない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	各種マニュアルを作成し事業所内に掲示している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	毎年避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	個別ファイルですぐに確認できるようになっている。年に1回、状況の確認を行っている。てんかんの児童の対応マニュアルを作成している。対象児はリストアップし共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	個別ファイルですぐに確認できるようになっている。年に1回、状況の確認を行っている。対象児はリストアップし共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	怪我が起こりそうな場所や破損箇所はすぐに対応するようにしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	保護者に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	報告書に記入し全職員に共有するようにしている。	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修会は年に2回行っている。全員が必ず参加できるように動画を撮っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	1	行っている。	